



重い雲が切れ切れに流れて、青い空の高いところに大きなうろこ雲が並んでいます。気持ちよい秋晴れがやっと続きました。太陽の光がこんなにもすべてを明るく眩しく照らしてくれることを今まで忘れていたかのような気さえます。陽光の惜しみない暖かさ、次第に早まる夕闇の静けさにあらためて身震いしながら、思い至ります。今年もこの季節がやって来たのだと。

\*\*\*\*\*

## 三校合同オリンピック大祭



毎年、4月から5月の連休中に、横浜・藤野・賢治の関東にあるシュタイナー学校三校の6年生は古代ギリシャの学びの集大成として「オリンピック大祭」を行ってきました。これは1期生の時から今までずっと続いています。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染防止に伴う休校や分散登校などのため、5年生の3学期中に行う合同練習は1回しかできず、本番である4月末のオリンピック大祭も延期となりました。

三校の6年生担任と藤野と賢治の体育専科の教員は、三校の中間地点である八王子に度々集まってはミーティングを重ねました。誰の心にも、「全体の時間を短縮したり、競技を減らしたりしてでも、なんとか今年も三校合同でオリンピック大祭を行いたい。」という気持ちがありました。体育専科の教員たちは競技の見直しや雨天時の実行の方法などを毎年の流れと比較して本当に丁寧に考えてくれました。そのような話し合いの結果を会場校である藤野の教員会でさらに検討し、9月初めにもう1回合同練習をし、9月21日に本番を行うことが決まりました。

例年と違い、今年は担任が公共交通機関を使って子どもたちの引率をするのではなく、少しでも感染リスクを避けるため、各家庭で会場である藤野の名倉校舎に現地集合・現地解散としました。当日は4連休の3日目ということで交通渋滞が予想されると共に、秋雨前線による雨天の心配もありました。

幸いお天気は曇りで、気温も涼しく運動するには絶

好の日になりました。しかし、交通渋滞の影響は大きく、横浜から家用車でいった家族のほとんどが渋滞に巻き込まれ、少し開会を遅らせるというハプニングもありました。

それでも大祭が始まれば、教師たちはオリンポスの神々や神官になった気持ちで子どもたちに呼びかけ、子どもたちも熱心に火おこしを使って火をおこし、聖火に点火しました。開会式の折々に合唱や笛の合奏、詩の朗唱があることは、美を追求した古代ギリシャの人々の精神にかなっていると感じました。



競技内容は例年の「走り幅跳び・円盤投げ・中距離走・槍投げ・リレー・レスリング」の6種目の内、体育館内で接近して組み合うレスリングは行わないことにし、そのほかの5種目は試技を2回から1回に減らして時間短縮を図りました。

合同練習の際にはあまりやる気が見られず、大丈夫かなと少し心配していたちょっとお姉さんな横浜の女子たちも本番では全力で各競技に取り組んでいる姿を見て安心しました。男女ともに、練習の時にはなかなかできなかった美しいフォームでの円盤投げや槍投げができていたことや、中距離走を頑張って力を抜かず走っている姿は本当にまぶしいものでした。

そして何といても誰もが興奮する最後のリレーでは、ポリスごとに子どもたちが顔を突き合わせて作戦を立て、走る順番を決めて、どの子も全力で走りました。少し時間が余ったのでリレーの第2回戦を行えたことは、子どもたちも応援する保護者達も喜ばせる結果になりました。



閉会式では各自に月桂樹の冠が贈られました。本来はスポーツの勝者にはオリーブの冠を贈り、文化芸術の優秀者には月桂樹の冠を贈るのですが、今年は月桂樹なら手に入ったとのことでそうになりました。しかし月桂樹は後で料理にも使えるからこれからは月桂樹にしようかという声も反省会ではありました。

聖火は毎年、藤野の花壇の椿の花びらを火に注いで消火するのですが、今年は季節が違うので藤野で赤いバラを購入してくださり、その花びらを使いました。いつから始まったのか知りませんがこの消火の仕方はすごく美しいと思います。

今年は当日の表彰식을短縮するために、オリンピック後の登校初日に各校で各自への賞状を手渡しました。審査員の先生方がその子の一番頑張ったと思われる競技について話し合い、賞賛の言葉を下さいます。賞状にはその言葉が書かれています。勝ち負けや順位ではない個人個人のやる気や頑張りを私たちは見たいのです。素質や能力のある者だけが評価されるのではなく、全ての人が賞賛に値する存在なのだというこの教育の基本はここにも貫かれています。

最後になりましたが、休日返上で審判として同行してくれた先生方や会場校としてたくさんの仕事を引き受けてくれた藤野の教員・保護者・スタッフの方々、賢治の学校の教員の方々、そして子どもたちの雄姿を応援してくれた保護者の皆さんに心からお礼申し上げます。この状況でもオリンピック大祭ができて本当に良かったと思っています。

(6年生担任 神田昌実)



横浜シュタイナー学園では、季節の祝祭をととても大切にしています。そして、子どもたちだけでなく、保護者も季節を感じ、大人の視点から季節のリズムを大切にする意味、各祝祭のもつ背景を学ぶ機会を得ています。例年とは大きく異なる今年の場合のもと、ミカエル祭の季節を通して学園内での様子、保護者向けの祝祭勉強会の様子を、教員会祝祭担当の三品恭子先生からの報告です。

\*\*\*\*\*

## ミカエル祭報告



9月29日聖ミカエルの日に、全校でミカエル祭始まりの会を祝いました。例年ですと、全校遠足、ヨハネ祭、月例祭……と一学期のうちに全児童、生徒が顔を合わせる機会が何度かあるのですが、今年度はなかなかその機会を持つ事が難しく、全校で集えたのは、通常登校が開始された7月、近隣の萱場公園で行った1年生との対面式以来のことでした。二学期に入り、このような状況下でも何とか全校集まったのミカエル祭をできないか、と教員会では話し合いを重ねました。学内に広いホールはありませんので、対面式の時の様に屋外で集まることを決め、今だからできることを模索していきました。毎年、子どもたちは十日市場校舎のオイリュトミー室で、静かにオイリュトミーを観て、ミカエルの季節にふさわしい話を聴き、皆で歌をうたい、このひと月をどう大切に過ごせるのか、それぞれの思いを胸に自分の教室に戻って行きます。屋外であっても、今年も同じようにミカエルの季節が来たことを子どもたちが感じられるよう、まずは各校舎で、いつものようにオイリュトミーを始め、その後、お話を聴いたら、全校で十日市場校舎の向かいにある団子山公園に集まることになりました。当日、公園では、6年生以上の子どもたちが大きな輪になって待っていました。そこへ、しっかりと手を繋いで歩く1年生と5年生を先頭に霧が丘校舎から子どもたちがやってくると、高学年と低学年はペアになって並び、輪はさらに大きくなりました。皆で「天の使いミカエル」の歌をうたった後は、「一人ひとりが勇気をもって歩く」体験をしました。空に輝くお星さま、静かに目を閉じ、勇気をもってその星に向かって歩きます。その後ろには天使が見守り導いてくれます。輝く星は担任の先生、低学年の子どもには高学年の子どもが天使となり、背中に優しく手をあてて、前に進む手助けを、高学年の子どもには低学年の子どもが天使となり、優しく手を引いた

り、背中に手をあてたりしながら、お星さまのもとに届けます。お星さまのもとにたどり着いた子どもたちは、安堵の笑顔を見せていました（高学年になるとはにかんでいる様な・・・）。その後、また輪になって、皆で歌をうたいました。久しぶりに顔を合わせた子どもたちは、皆、清々しい笑顔を見せてくれました。

このミカエル祭は一般的にあまり知られていません。学園に入学して初めて聞いたという方も少なくありません。どうして学園では四季の祝祭を大切にしているのか、どのような祝祭で、大人はどのような気持ちでこの祝祭に向かえばよいのか、ミカエル祭に先立ち、新入生、転入生の保護者の方を中心にミカエル祭に思いを寄せ、話をしました。まず、吸う息と吐く息の違いを感じ、大きなレムニスカートを皆で動き、どこで息を吐き、どこで吸っているのか、それが切り替わるのはどこなのかを感じていきました。そして、私たちと同じように地球も呼吸をしていること、その表れが四季であることをお話しました。この季節の巡りの中で祝祭を体験することは、呼吸をしている地球を感じて、人間は大きな宇宙の生命と繋がって生きているということを実感します。また、四季の祝祭を通して地球のリズムを感じることができます。あらゆる生き物にとって本質的なものはリズムであり、リズムは生命と健康の担い手です。一年のリズム、一月のリズム、一週間のリズム、一日のリズム・・・基本的なリズムは眠りと目覚めです。人間は本来リズムに従うことの方が自然で心地よく、安心感を得られること。特に子どもにはそれが大切なので、大人がその環境を作ってあげなければいけないこと、日々の生活もそうですし、祝祭に向かう大人の心の準備や思いの大切さもお伝えしました。（いつも決まったリズムの中で過ごす心地よさ、それが乱れた時の驚きや不快感も感じていただきました。）そして、大天使ミカエルが龍と戦ったお話をし、ミカエルが人間に何を伝えようとしているのか、悪とは何なのかをともに考え、私たちの日常の中でも自分のうちに潜むもの（傲慢さや怠慢な心等）を克服しようと試みる時、ミカエルがそばにいることを感じ、勇気を持って進めるであろうこととお話しました。四季の祝祭について皆で学ぶ時、私自身も学び、考えることが多く、毎年貴重な体験をしていることを感じ、参加して下さる皆様に感謝しています。

(次のページにつづく)



そして、皆がそれぞれの思いを持ってこのひと月を過ごし、10月22日には再び全校でミカエル祭終わりの会を祝うことができました。近隣の体育館をお借りし、いつものようにオイリュトミーで始まるミカエル祭です。この終わりの会では、この間にそれぞれのクラスで取り組んできたことを皆に見ていただき、最後はオイリュトミーで静かに閉じました。1年生、2年生と転入生の保護者の方々にも見ていただくことができました。今年度は一学期の月例祭をもてなかつたこともあり、子どもたちにとっても、大人にとっても喜びに満ちた祝祭となりました。

(教員会祝祭担当 三品恭子)

ミカエル祭の勉強会に参加した保護者からの感想です。

学園に入ってからシュタイナー教育を身近に感じるようになった私にとって、ミカエル祭の何も知らない状態での参加でした。どんな話が聞けるのかとても楽しみでした。三品先生の分かりやすいお話とともに、まずは皆で輪になって動いたり、連なって大きく移動したり、全身で季節の変化を体感するという初めての経験でした。

また大天使ミカエルのストーリーを通して、自分の乗り越えるべき課題を改めて思い起こすことができました。今の自分に安住することなく、アドベントまでに一歩でも成長した自分になるよう決意させてもらった時間となりました。次回のアドベント勉強会も楽しみにしています。

(1年生保護者 今井麻記)



三品先生が優しい雰囲気を作ってください、ミカエルの季節という、日没がぐっと早くなり寒くなってきたこの時期に、とても心が温まる会でした。印象に残ったのは、みんなで一列に連なってレムニスカートを動いた後、輪になって座って順番に隣の人に手をたたいて音の流れを送っていくワークです。多くの人たちと近づくことも最近はなかなか出来ないことだったので、いつも以上に楽しく感じました。

一人一人順番に手を叩き、音がリズムよく回っているときは、場の一体感とともに調和を感じ、逆に急にそのリズムが変わったときは、びっくりして身体が硬くなる感覚を覚えました。

日々のリズムを大切に、季節の巡りをゆっくりと感じながら過ごすことが、こどもの精神を育み大人にとっても安定した心持ちでいられることを改めて感じることができました。

これから冬に向かって、ミカエルの働きを自分自身の中に感じ、心の中の光とともに過ごしたいと思いません。

(1年生保護者 小林彩乃)

今回は期せずしてメモを取らずにお話を聴く流れとなりました。そのお陰もあって、三品先生のお話から発せられるエネルギーをたくさん身体で感じられる時間となりました。

最後の方には、今年の終わりまでの道がスッと目の前に現れ見えた気がしました。

勉強会が終わってしばらく経った今、「ミカエル・勇氣」それらのエネルギーは常に自分の中にあり、私を見守り、問うてくれていると感じています。

そして「問うてくれている」それを思うと、気づいたことの喜びでしょうか、涙とともに心がふるえます。

三品先生、勉強会グループの皆さんありがとうございました。

(2年生保護者 四十物なぎさ)

10月18日に、大人のためのシュタイナー学校体験授業を行いました。今回は、低学年の授業として「かず」と「音楽」、高学年の授業として「物理」と「中国語（導入）」の2講座の開催となりました。「物理」（7年担任 西尾早知子先生）と「中国語」（中国語専科 王みやお先生）の講座に参加した学園保護者が、感想を寄せてくれました。

\*\*\*\*\*

## “体験する授業”の体験授業

「6年生の物理、光の授業は、まず教室を真っ暗にして始めます。」

体験講座が行われたオイリュトミー室は大きいので、カーテンの間隙から光が漏れて真の暗闇にはなりませんでしたが、実際の授業では、教室中の窓やドアに黒い画用紙を貼って本当の真っ暗にするそうです。そして光に出合う授業が始まりました。

余分な光が拡散しないように先を覆った懐中電灯を照らしてみると、壁の一点に光が見えますが、壁に当たる前の光は見えません。チョークの粉（かな？）を振ると、懐中電灯から出てくる光が一筋になって見えます。今度は光を受け取ってみましょうということ、鏡を使って光を受け取り（反射し）、次の人に渡します。今回はこれがなかなかうまく受け取れなかったのですが、それも実験。鏡に、星形にくり抜いた画用紙を当てると、天井に星形の光が現れました…。

色の付いた光を混ぜてみたり、画用紙に丸く塗った色を見つめてから白い部分を見るとどう見えるか試してみたり。

こんな風にして、とにかく最初はいろいろ試して体験して感じる、というのがシュタイナー学校での物理の授業なのだそうです。最初に体験してから、翌日その体験を言葉に表していき、そこにどんな規則性があるかを考えていく。

法則ありきで“教えてもらって”きた私は、大学時代、教科書に書いていない・教えてくれる人がいない領域に踏み込んだとき、頼るものがないことに戸惑いを覚えた時期がありました。考えてみれば当たり前で、最初にその法則を見出した誰かは、別の誰かに“教えてもらった”のではなく、自分の経験から自分で“辿り着いた”のですよね。シュタイナー学校流の授業では、子ども一人ひとりに“辿り着く”疑似体験をさせてくれているように思いました。

中国語の授業は、最初に「中国語だけで進めます」と言ったとき、本当に全て中国語だけで行われました。「1年生になったつもりで付いてきてください」とのことだったのですが、1年生になりきれない私は、『英語の語順に似てるみたい』とか『文字にするとあの漢字かな？』とか、大人の知識から来る邪念がどうしても先に立ってしまいました。

今回授業を受けた大人たちは、先生が教室の輪の中に入って来て話し始めても、「？」という感じで黙って様子を見ているだけでしたが、模倣の力の強い低学年の子どもたちは、先生が「さあどうぞ（繰り返してく

ださい）」なんて言う必要もなく、先生が口を開くと同時に同じことをし始めるのだそうです。

30～40分ほどの授業で、私とあなた、否定形、疑問文、挨拶、数、色、と初心者には盛りだくさんな内容でしたが、繰り返し同じフレーズを身振り手振りで示しながら、大事な部分を変えずに少しずつ角度を変えて全員と言葉のキャッチボールをしていくことで、全くの中国語初心者である私でも、中国語の音だけの中から（多少の大人の知識も借りながら）意味を捉えることができました。子どもならきっと、頭でごちゃごちゃ考える前に、模倣することで音とその意味とを全身で感じ取っていくのだろうなと思いました。

もちろんシュタイナー学校らしく椅子を輪に並べて座るので常に全員参加型で、みんなで動きながらやってみたり、当てっこをしてみたり、とても楽しいひとときでした。

自分が中高生のころの記憶にある光の実験は、教卓の上に箱を置いて、というものでした。英語を初めて教わったときも、全て英語だけでなんてことはありませんでした。

教室全体を真っ暗にしたら誰だってわくわくしますよね。教室をまるごと実験箱にして、その中にどっぷり浸って感じる。中国語も中国語だけの音の中にどっぷり浸って感じる。「どっぷり浸って全身で感じ取る」というのが、心を動かす授業の秘訣なのかなと思った今回の体験授業でした。

（3年生保護者 本橋麻衣子）



# インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

## 2021年度新・転入入学説明会(二次)

11月28日(土) [A] 14:00～15:00 霧が丘校舎

12月5日(土) [B] 14:00～15:00 十日市場校舎

※2021年度に入学をご希望の方は、A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

※面接予定日は2021年1月16日(土)・17日(日)です。

## 聖夜劇

日にち：12月20日(日)

時間：13:00開場 13:30開演

会場：緑公会堂

観劇料：おとな900円 こども600円

\*お問い合わせ、お申し込みは、  
学園事務局までお願いします。  
完全予約制になります。

～事務局より～

ご支援ありがとうございます。  
大切に活用させていただきます。

(順不同・敬称略)

山田いずみ、星の金貨  
学園にお気持ちを寄せてくださり、  
心より感謝申し上げます。

## NPO会員募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同し、活動への参加、支援を希望される方は、どなたでもNPOの会員になれます。会員は総会への参加の他、紀要冊子「野ばら」(年1回発行)とニューズレターをお送りします。また、学園主催の各種催しに会員価格で参加できます。正会員と賛助会員からお選びいただけます。

<入会申し込み>

詳細は学園事務局までお問い合わせください。

## ☆星の金貨より☆

◎くるみのアドヴェントカレンダーキット2020は、おかげさまで完売いたしました。

ありがとうございました。

ご注文の皆様には、11月5日頃にお渡し・発送いたします。

もうしばらくお待ちください。

今年ご予約出来なかった皆様、申し訳ございません。

また来年よろしく願いいたします。

◎11月に入りましたら、クリスマス商品もお店に並び始めます。

人気の手作り布マスクもございます。

どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ ☆星の金貨

hoshino.kinka7@gmail.com



## SNSはじめました!

横浜シュタイナー学園

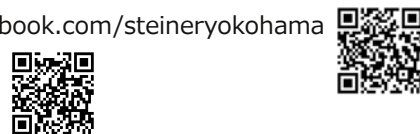
Facebook公式ページとInstagram公式アカウントを開設しました。

FB

<https://www.facebook.com/steineryokohama>

Instagram

yokohamasteiner



ぜひ、フォロー、お友だちへのご紹介をお願い致します。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.jp](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.jp)

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セトキヨウ店) 当座0130702



横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第134号～

2020年10月29日発行

編集： 広報の会

発行： NPO法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします